

エピソード

6.1.5 ワールドカップについて

高橋幸雄

2002年、日韓合同ワールドカップに関して、その誘致活動を日本あげて行っていた。NICT（当時 CRL）は、鹿島に VLBI 観測施設があり、この鹿島は、J リーグ発足時期から参加している鹿島アントラーズがある町でも有名である。鹿島においても、ワールドカップ誘致が悲願であったこともあり、少しでも誘致に向けた支援ができないか、地元も含めた人々の意識を高められないかということで、鹿島の皆さんからの援助もあって、34m アンテナに、ワールドカップ誘致に向けた支援の絵のシールを貼ってピーアール活動に協力した。1996年4月末から1997年5月まで1年継続した。

この絵に関しては、アンテナの性能を落とさないように、導電率なども含めて検討を行った。特に22GHz帯などの高い周波数での観測も行っていたため、この材質には注意した。また、後元に戻すことも考えて、特殊なシールを貼ることにした。

通常アンテナは天頂を向いているため、見えないが VLBI 観測などアンテナを動かすときには、いろいろな方向に向くため、見ることはできた。そばを通っている道路から見ることもでき、近くに鹿島アントラーズのクラブがあるので、そこを訪れる人なども見る機会があったと思う。また、鹿島上空は、国内外の航空路の通り道でもあり、飛行機からこのアンテナを見たときに、この図が見えたときは感動であった。



図 ワールドカップ誘致に向けた絵を描いた鹿島34m アンテナ